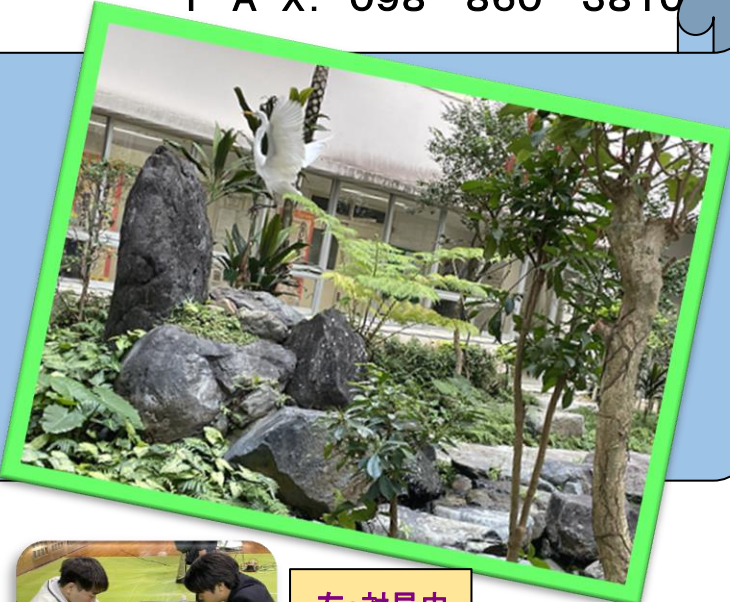


那覇国際高等学校

学校だより 第19号



徳嶺さん 北欧へ派遣！



今回私が半年間参加していた琉球frogsプログラムで構築したサービスと個人の成長が評価され、フィンランド・エストニアへ1週間の派遣をさせていただきました。現地でのフィードバックを受け、国際的視点を獲得し、文化交流を通じて日本の良さや課題も再認識できました。私にとってこの海外研修や半年間のプログラムは貴重な経験となり、今後も自分自身の強みにしていきたいです。



徳嶺杏美さん
2年1組

沖縄県内の中高校生から大学生を対象にした人財育成プログラムである「琉球frogs」による海外派遣研修に県内から学生が3名派遣され、そのうち本校の徳嶺杏美さんが選ばれました。1月12日から19日まで、フィンランドとエストニアで企業や施設等を訪問し、自分たちが構築したサービスのビジネスピッチを英語で発表し、フィードバックを受けるなど、異なる価値観や視野を広げる貴重な経験をしました。

祝 邊土名さん将棋 全国大会優勝！

「第33回全国高校文化連盟将棋新人大会」が1月30日から2月1日にかけて長崎市にて開催され、本校の邊土名朝陽さん(2年7組)が見事、優勝を果たしました。男女を合わせて、新人大会での沖縄県勢の全国優勝は初めてとなります。



邊土名朝陽さん(2年7組)



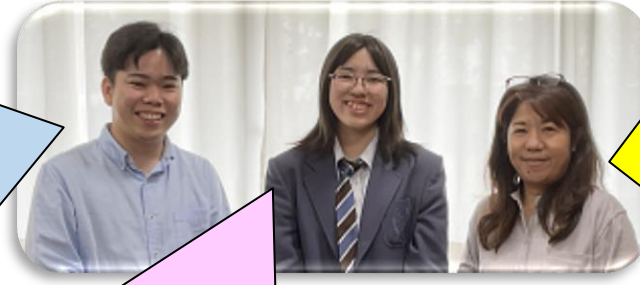
左:対局中の邊土名朝陽さん

今回は長崎で行われた新人大会で、優勝することができました。前回は準優勝だったので、目標を達成できてよかったです。負けそうな試合もあった中、勝つことができたのは運も良かったと思います。次の目標は竜王戦で優勝することです。まだまだ課題も多いので、もっと強くなれるように頑張ります。



全国大会
立て看板前にて

祝 沖展書芸部門 3名入選！



1年5組の喜納葉奈美です。「沖展」は初めての挑戦で苦労した事もありましたが、書道の奥深さと表現の楽しさを改めて感じることでできる良い機会になりました。

書道の金城です。今回の沖展入選は、生徒と共に挑戦し、最後までやり抜く力を伝える事ができました。今後も書の魅力を生徒達に伝えていけるよう精進していきたいと思っています。

英語科の知念です。「沖展」に初挑戦し、入選できたことを大変嬉しく思います。書道は国際交流を促進する魅力的な芸術であり、稽古鍛錬を重ねながら今後も精進していきたいと思います。

「第76回沖展書芸部門」に本校の喜納葉奈美さん(1年5組)と金城正樹先生(書道)、知念朋美先生(英語)の3名が一般応募283点の中から、見事「入選」を果たしました。今年度の沖展(主催:沖縄タイムス社)は、3月15日から30日までの期間、浦添市民体育館にて開催されます。

今後の行事予定

- 2月
11日(火) 建国記念の日(公休日)
12日(水) 1年生離脱大学講座(放課後)
13日(木) 2学年集会 3年出校日
14日(金) 2年生離脱大学講座(放課後)
15日(土) 全国記述模試(1・2年希望者)
18日(火) 1学年集会
20日(木) 1年進路集会
21日(金) 統一LHR 全体清掃
22日(土) PTA美化作業
23日(日) 天皇誕生日
24日(月) 天皇誕生日振替休日
25日(火) 卒業式振替休日
28日(金) 卒業式予行演習
3月
1日(土) 第25回卒業式

空手九州大会 3位！



「第44回全九州高校空手道新人大会」が1月18日から3日間、大分県にて開催され、本校男子空手部が「団体形」で3位となり、3月に開催される「全国選抜大会」への出場権を獲得しました。女子は形と組手でベスト8でした。

先端研究施設研修へ参加！



1年7組の比嘉りいこです。私はつくば研修に参加しました。今まであまり興味があるものがなかったのですが、研修では初めての体験がとて多くて興味を持つきっかけとなりました。これから科学の面白さをもっと知って楽しく学びたいです。

「先端研究施設研修」が1月22日から24日までの3日間実施され、1年生の比嘉りいこさんと、引率者として化学の仲村将直先生が参加しました。一行は「筑波宇宙センター(JAXA)」や「防災科学研究所」「地質標本館」など、国内第一線の研究施設における研修を通して、科学に対する興味・関心を高めることができました。

県写真コンテスト 優良賞！



題:「地球からの離陸、空への着陸」

沖縄県高等学校文化連盟写真専門部主催による「第48回沖縄県高等学校写真コンテスト」が1月23日に実施され、本校の前原風月さん(1年1組)が応募総数756点の中から、見事、全体の4位に相当する「優良賞」を獲得しました。

数学科 小松先生 表彰！

「第32回教育実践研究論文(日本教育公務員弘済会沖縄支部主催)」に小・中・高・特別支援学校から64編もの応募があり、本校数学科の小松真澄先生が「主体的・対話的な学びから自己調整力を高める授業づくり」と題した論文で応募し、「優良賞」を受賞しました。

この度は、優良賞をいただき大変光栄です。この成果は一人の力ではなく、一緒に切磋琢磨した先生方や生徒たちのおかげです。今後も教育の発展につながるよう、学び、努力を重ねていきたいと思います。



数学科
小松先生

名言・名句

This has been my dream ever since I entered the sumo world, I can't find the words to describe this happy feeling.

相撲界に入ってから、これ(横綱になること)が私の夢でした。この嬉しい気持ちを言葉で表現することはできません。



【解説】

これは1月29日に開催された日本相撲協会の臨時理事会において、第74代横綱昇進が満場一致で決まったモンゴル出身の豊昇龍が記者会見で述べた言葉である。



合格体験記 18 (お茶の水女子大学・生活科学部・心理学科)



(1)この大学(学科)を選んだ理由

心理学には小学生の頃から興味があり、自身が周囲から相談を受ける立場に立つ事も多々あった事や、「相手はどう感じてどう反応するのか」という心理学的なものの見方をしていた為に、自然とカウンセラーになるという夢と、その職で生計を立てていくにあたって大学院までの進学が条件である公認心理師や臨床心理士の資格取得が必要だと定まりました。しかし私の場合、職業のみならず生き方として心理学を学ぶことが目的である為に、資格取得の為に進学や、教育・障害者支援等の他分野の延長として位置する心理学科への進学は受け入れられないものでした。そんな中、心理そのものとして学ぶ事の出来る大学として自身の理想と一番合っていたのがお茶の水女子大学でした。

(2)高校在学中の勉強方法について

単元テストのために問題を解き単語テスト前に慌てて単語を確認する。その勉強の最大の過ちは、「点を取る事」が目的に置き換わった事です。その皺寄せは三年生になり授業の大半を演習が占めるようになる頃に、取り返しの難しい大きさでやってきます。演習で身につくのは、当日も落ち着いて解く力や長時間の集中力、時間配分の能力であり、根本的な学力ではありません。つまり演習に入る頃に単語が分からなければ、公式を覚えていなければその演習は本番の実演という意味を持たないという事です。とは言うものの、授業が理解できない時もあると思います。そう言う時には一度、今のクラスで自分は全力を尽くしているかを考えてみましょう。例えば授業が速くて分かりにくいと思っていた先生も、個人で質問をした時には丁寧にこちらのペースで教えてくださる事が多いです。

(3)後輩へのアドバイス

・二年生までにとにかく基礎知識をつけておく(単語、熟語、活用形、公式など)・短期記憶にさせないように、少しずつでも苦手な単元や暗記は触り続ける。この二点だと思います。先にも述べた通り、三年生になってからの授業は演習になる為、新しく学ぶ知識はさほど多くありません。二年生までに既に共通テストを受けるだけの知識は受け取っていることになります。その為欠けている知識や、学校でのテストをうまく逃げてそのままなかに済ませた部分は早く解決する事が大切です(勿論全てコツコツ出来たら一番なのですが)。受験までの時間を冷静に考え、焦って参考書を買って漁ったり演習を始めるのではなく、潤沢な時間で基礎を一から固められるチャンスを有効活用して欲しいです。

本校25期生(現3年生) 女性